

# 工業団地で太陽光発電

## いちき串木野 業者ら準備会 運営会社設立へ

いちき串木野市の西薩中核工業団地の各工場屋上に計2千キロワットの太陽光発電装置を設置し、団地ぐるみで発電・売電する民間主導のメガソーラー計画が固まり、26日、合同会社設立に向けた準備会が発足した。地元企業や市、市民から出資を募り、2012年4月の着工を目指す。

計画は濱田酒造(同市)の関連会社パスポート(川崎市、濱田総一郎社長)が主導する。今後、地元企業、金融機関などが出資する合同会社を来年3月に設立し、2億円規模の市民ファンドも募る。計画によると、一般家庭500戸分の消費電力に相当する2千キロワットを、7月から順次九州電力に売電していく。さらに市内の事業所や公共施設、学校、一般家庭にもソーラーパネルを展開し、850〜900キロワットを発電する予定。事業規模は12億円程度と見込む。準備会にはパスポートのほか、濱田酒造、勘場蒲鉾店など団地内に工場を置く5社が参加する。

串木野新港に隣接する西薩中核工業団地は工場用地52・5畝。用地面積の67%が分譲済みで、焼酎、水産加工品などの工場が中心。

合同会社 さつま自然エネルギー(仮称)  
設立準備会 発足式



メガソーラー事業の概要を説明する濱田総一郎社長(中央)ら—26日、いちき串木野市役所